

名古屋学芸大学 大学院
栄養科学研究科
(栄養科学専攻 博士前期課程)
研究科案内
(2026 年度)

名古屋学芸大学

教育研究上の理念と目的

現在、食と健康を取り巻く状況は、過食と運動不足による肥満、偏食による栄養障害、不適切な痩身願望や摂食障害など、様々な問題が山積しています。

また、糖尿病、脂質異常症、高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患、等の生活習慣病は栄養・食生活と深く関連しており、傷病者に対しては、病院、介護老人保険施設、クリニック、健診センター、社会福祉施設等において、また健常者に対しては、市町村の保健センター及び保健所あるいは企業等において、疾病予防や治療を目的とした栄養指導を行う必要性が高く、栄養・食生活全般に加えて予防医学や臨床医学に関する専門知識と技能を身に付けた人材の育成が不可欠となっています。

さらに、少子高齢化が世界に類を見ない速さで進行している中、今までの知識では対応しきれない「食と健康」に関する深刻な問題が出現してきています。

高齢者の栄養問題は、サルコペニア、フレイルといった高齢者の生活自立度（ADL）を障害し、要介護に直結する病態に関与しています。また、認知症患者の栄養障害や嚥下機能低下による誤嚥性肺炎など、高齢者の健康寿命延伸を阻害する様々な問題に対応する必要があります。また、若年女性の過度な痩身願望や拒食・過食といったようなメンタルな要因による疾病など、現代人の「食行動」全般に関する多様な問題が発生しています。更に、近年のわが国の食をめぐる状況の変化に伴う様々な問題に対処していくために、乳幼児から学齢期の児童に対しての「食育」の必要性が求められています。その他、食物アレルギー、食の安全性に関わる諸問題など、従来からの単に過食、栄養摂取のバランスの悪さなどの問題に加えて、食摂取に関する多くの問題が起きています。

それらの複雑で多様な課題にも対処できる総合力を有した専門的人材養成が喫緊の課題であり、その社会的必要性は極めて高いと考えます。

人材養成の目的と各ポリシー

（人材養成の目的）

栄養学、食品学のみならず、生命科学、臨床医学、社会医学等における知識を基礎として、人間栄養学、臨床栄養学等を中心とした実践的な栄養科学に関する広範な知識を有し、「食と健康と医療」に関わる総合的見識を有する栄養科学の研究者・教育者および高度専門職業人養成を目指す。

（ディプロマポリシー）

本研究科においては、次のような到達目標を掲げ、その能力を身に付け、修士論文の審査と最終試験に合格した者に修士（栄養科学）の学位を授与します。

- ・ 栄養科学の分野で科学的・論理的な研究が実践でき、かつ専門職業人としての高度な知識・技能を有している。
- ・ 栄養科学における問題点を提起し、創造的な手法を提案し、その効果を科学的・論理的に評価し、問題解決できる能力を有している。

（カリキュラムポリシー）

「食と健康と医療」に関する総合的見識を備えた栄養科学の研究者・教育者および高度専門職業人を養成するために、以下のカリキュラムを編成しています。

- ・ 基礎科目である EBN 特論および EBN 演習を通じて、栄養科学の研究者として必要な倫理観、専門に偏らない広範な知識、科学的・論理的な研究手法、外国語文献の読解力などを習得する。
- ・ キャリアパスに応じて、「人間栄養」、「医療・介護」、「学校栄養・行政栄養」、「食品機能・食品安全」の研究領域ごとに応用科目を開講し、医療・福祉、食育、健康施策・食に関連する行政、あるいは企業や国際機関などで生じる問題について解決できる知識や技能を習得する。
- ・ 特別研究では研究倫理および科学的・論理的研究手法・論文作成法を習得する。

(アドミッションポリシー)

栄養科学領域の研究者・教育者および指導的立場の管理栄養士を養成する目的から、次のような学生を求めています。

- ・ 社会貢献・地域貢献を目指した実践的な研究ができるとともに、国際的な視野を持ち、栄養科学の発展のために尽くす意欲のある人
- ・ 専門知識と研究・実践能力をさらに発展させ、「人間栄養」、「医療・介護」、「学校栄養」、「行政栄養」、「食品機能・食品安全」の領域でリーダーを目指す意欲の高い人

教育課程の編成の考え方と特色

栄養科学研究科では、現代の「食と健康」に関する多様な問題に対応できる高度専門職業人を養成するために、栄養科学の専門知識・技能を幅広く習得し、管理栄養士あるいは栄養に関するエキスパートとしてその専門性を深めるとともに、将来のキャリアパスに応じた科目を選択して受講できるように教育課程を編成しています。

教育課程は「基礎科目」と「応用科目」に分けており、「基礎科目」においては、栄養科学の研究に必要とされる基礎的知識を学ぶ「EBN特論」、「EBN演習」を必修で配置しています（※EBN：Evidence-Based-Nutrition 根拠に基づく栄養学）。

「応用科目」では、「人間栄養」、「医療・介護」、「学校栄養・行政栄養」、「食品機能・食品安全」の4つの領域を設けるとともに、各領域が補完し合う構成としました。

「人間栄養領域」においては、生命科学領域で栄養素が遺伝子・細胞レベルから生体レベルの機能にどのような影響を与えているかについて基礎科学の面から深く探求します。また、栄養と生活習慣病との関連性、健康増進・体力向上のための運動栄養のエビデンス、加齢に伴う機能変化や生活環境と栄養の関連など、広範な栄養科学の理論的背景を学びます。

「臨床栄養領域」においては、医療・福祉の現場で実践されている臨床医学、臨床栄養学の基礎知識と栄養ケアマネジメントの実践の裏付けとなる科学的根拠を理解することにより実際にチーム医療の一員としてベッドサイドでの栄養指導や健康づくりのための栄養評価・判定、生活習慣病によってもたらされる慢性疾患の予防及び治療のための栄養補給・管理のあり方などについて、応用的教育・研究を展開します。

「食行動・食環境領域」においては、個人並びに集団に対応した人の生活を栄養・食・生活・環境の現状から、健康維持増進に対する包括的な対応方法をより深く研究していきます。

「食品機能・食品安全領域」においては、人が食物を摂取して体内に取り入れた栄養素が生命現象を営む上で、如何に機能しその過程で食の持つ新しい機能が明らかになると同時に、様々な機能性食品や遺伝子組み換え食品が開発されることに伴う食物アレルギー、環境ホルモン、食品汚染などの新たな課題も生じており、これらの背景を踏まえて食品機能と栄養学的アプローチを科学的に分析し、理解、応用するための新たな視点の教育・研究体制を確立し、如何に管理栄養に結びつけるかを考えます。

さらに、臨床現場において実施されるインターンシップの単位化を図り、現場での実践力を養い、患者の実態の直接的把握と栄養支援の体系的理解を行うことで、実証的な研究能力を高めることができる教育課程の編成を図っている。また、栄養教諭専修免許状の免許・資格を取得のため、授業内容の対応を図っています。

修了要件

基礎科目から4単位以上、応用科目の「人間栄養」、「医療・介護」、「学校栄養・行政栄養」、「食品機能・食品安全」、「インターンシップ」のうちから12単位以上、及び特別研究8単位の合計30単位以上取得し、修士論文の審査及び最終試験に合格した者。

開講科目

()は単位数

【基礎科目】

E B N特論(2)、E B N演習(2)、基礎統計解析演習(2)、応用統計解析演習(2)、
アカデミックライティング(2)

【応用科目】

(人間栄養領域) 栄養生理学特論(2)、栄養生化学特論(2)、スポーツ栄養学特論(2)、
ライフサイクル栄養学特論(2)
(医療・介護領域) 臨床医学特論(2)、臨床栄養学特論(2)、栄養ケアプロセス特論A(2)、
栄養ケアプロセス特論B(2)、臨床心理学特論(2)、臨床心理学演習(2)
(学校栄養・行政栄養領域) 栄養疫学特論(2)、食教育学特論(2)、公衆栄養学特論(2)、
国際栄養学特論(2) 地域包括ケア特論(2)
(食品機能・食品安全領域) 食品機能学特論(2)、食品機能学演習(2)、食品安全学特論(2)、
食品マネジメントシステム(FSMS)特論(2)
(インターシップ) インターンシップⅠ(2)、インターンシップⅡ(2)、インターンシップⅢ(2)
特別研究(8)

【注】開講科目は2025年度のものであります。

授与学位

修士(栄養科学)

取得資格

栄養教諭専修免許状(但し、栄養教諭一種免許状取得者に限る。)

注：栄養教諭専修免許状は教育職員免許法の規定により、本大学院においては大学にて栄養教諭一種免許状を取得した者以外は栄養教諭専修免許状が取得できません。詳しくは大学事務局(事務局)までお問い合わせ下さい。

教 員

- 杉浦康夫 学長・教授《医師・医学博士》
 - ・ 専門：神経解剖学・疼痛学・神経病理学
 - ・ 研究テーマ：痛みの機能形態学的研究、言語表出できない人の痛みの評価
 - ・ 略歴：名古屋大学大学院医学研究科 博士課程修了
福島県立医科大学 教授
名古屋大学 教授
名古屋大学医学部長・医学系研究科長
名古屋大学副総長
愛知県心身障害者コロニー 総長
瑞宝中綬章受章
- 北川元二 研究科長・教授《医師・医学博士》
 - ・ 専門：内科学、消化器病学、糖尿病学
 - ・ 研究テーマ：肥満に伴う合併症の病態の解明、栄養調査
大学生の健康・栄養調査、やせ願望の社会心理学的調査
糖尿病患者の体組成
 - ・ 略歴：名古屋大学医学部卒業
名城病院内科医師
名古屋大学部附属病院第2内科
米国ミシガン大学生理学教室
厚生労働省東海北陸厚生局臨床研修審査官
日本消化器病学会専門医、日本内科学会認定内科医、
日本消化器内視鏡学会専門医、日本医師会認定産業医

- 安達内美子 教授《管理栄養士・博士（栄養科学）》
 - ・ 専門：食生態学、栄養教育学
 - ・ 研究テーマ：一食の適量把握に関する研究、
持続可能で健康な食事に関する食生態学的研究、
食事の楽しさに関する食生態学的研究、
共食に関する食生態学的研究
食育教材開発に関する研究
 - ・ 略歴：徳島大学医学部栄養学科卒業
女子栄養大学大学院栄養学研究科修士課程修了
名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了
名古屋市教育委員会
名古屋市健康福祉局
名古屋市守山区役所
日本栄養・食糧学会会員、日本栄養改善学会会員（評議員）、
日本公衆衛生学会会員、東海公衆衛生学会会員
日本健康教育学会会員、日本学校保健学会会員、
日本国際保健医療学会会員、日本生活学会会員、
日本フードシステム学会会員、日本栄養学教育学会会員、
日本食育学会会員、日本教育工学会会員、日本 LCA 学会会員
米国栄養教育行動学会（SNEB）会員
NPO 法人食生態学実践フォーラム理事
- 池田彩子 教授《博士（農学）》
 - ・ 専門：栄養生化学 食品栄養学
 - ・ 研究テーマ：ビタミンの体内動態と生理作用に関する研究
 - ・ 略歴：名古屋大学大学院生命農学研究科博士後期課程満期退学
日本学術会議 第 25・26 期連携会員
日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員
大学改革支援・学位授与機構 学位審査会栄養学部会専門委員
愛知県教育委員会 産業教育審議会委員
Journal of Nutritional Science and Vitaminology 編集委員
British Journal of Nutrition 編集委員
- 井澤一郎 教授《医師・博士（医学）》
 - ・ 専門：分子医学、生化学、細胞生物学、脳神経外科学
 - ・ 研究テーマ：細胞内情報伝達経路の解明、細胞極性制御機構の解明、
脳腫瘍の病態解明と治療への応用
 - ・ 略歴：神戸大学医学部卒業
神戸大学医学部脳神経外科研修医
愛知県がんセンター研究所室長
日本癌学会会員、日本細胞生物学会会員、日本脳神経外科学会会員、
日本栄養改善学会会員、米国癌学会（AACR）会員

- 和泉秀彦 教授《博士（農学）》
 - ・ 専門：食品科学・食品機能学
 - ・ 研究テーマ：食物アレルギーに関する研究
 - ・ 略歴：名古屋大学大学院農学研究科（博士課程後期）満期退学
 日本調理科学会理事、日本調理科学会東海・北陸支部支部長、
 日本栄養・食糧学会中部支部参与、日本農芸化学会会員、日本家政学会会員、
 日本栄養改善学会会員、日本小児アレルギー学会会員
 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク理事

- 大野欽司 教授《医師・医学博士》
 - ・ 専門：データサイエンス、分子生物学、人類遺伝学、神経内科学
 - ・ 研究テーマ：バイオメディカルデータサイエンス
 神経筋接合部分子病態機構
 パーキンソン病の腸脳相関
 分子状水素の作用機構
 超低周波変動微弱磁場の量子作用機構
 - ・ 略歴：名古屋大学医学部医学科卒
 名古屋医療センター神経内科医師
 名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了
 日本学術振興会特別研究員 PD
 米国メイヨークリニックポスドク
 米国メイヨ医科大学助教
 名古屋大学大学院医学系研究科教授
 名古屋大学大学院医学系研究科副研究科長
 名古屋大学副総長
 日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本筋学会副理事長、
 日本神経化学会評議員、日本分子状水素医学生物学会理事

- 岡田希和子 教授《管理栄養士・博士（医学）》
 - ・ 専門：高齢者栄養
 - ・ 研究テーマ：高齢者の栄養状態と咀嚼力の関連
 サルコペニア・フレイルと栄養
 - ・ 略歴：徳島大学医学部栄養学科卒業
 徳島大学大学院栄養学研究科博士前期課程修了
 名古屋大学大学院医学系研究科健康増進医学専攻博士課程修了
 日本老年医学会会員、日本サルコペニア・フレイル学会評議員、
 日本臨床栄養学会会員、日本栄養改善学会評議員
 日本臨床栄養代謝学会会員、日本調理科学会会員

- 岸本 満 教授《博士（農学）》
 - ・ 専門：食品衛生微生物、食品安全マネジメントシステム（FSMS）
 - ・ 研究テーマ：食中毒菌の生態とリスク評価
食環境の微生物二次汚染の実態
食品安全マネジメントシステム（FSMS）の構築支援
 - ・ 略歴：岐阜大学農学部農芸化学科卒業
岐阜大学大学院連合農学研究科修了
HACCP Instructor
日本防菌防黴学会 評議員
日本防菌防黴学会 微生物制御システム研究部会 部会長
環境管理技術誌編集委員

- 小林美里 教授《博士（農学）》
 - ・ 専門：栄養生化学
 - ・ 研究テーマ：生活習慣病の発症に関わる食事および遺伝要因に関する研究
脂質異常症におけるビタミン E 代謝変動に関する研究
 - ・ 略歴：名古屋大学大学院生命農学研究科博士後期課程修了
日本学術振興会特別研究員 (PD)
名古屋大学大学院生命農学研究科 助教、講師
日本栄養・食糧学会（参与）、日本農芸化学会会員、日本ビタミン学会会員

- 下方浩史 教授《医師・医学博士》
 - ・ 専門：予防医学、疫学、老年医学、栄養学など
 - ・ 研究テーマ：高齢者の栄養と健康、老年病予防、老化に関する長期縦断疫学研究など
 - ・ 略歴：名古屋大学医学部医学科卒業
名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了
名古屋大学医学部老年科医員
米国国立老化研究所（NIA）Visiting Fellow
広島大学原爆放射能医学研究所助教授
国立長寿医療センター研究所疫学研究部長
独立行政法人国立長寿医療研究センター予防開発部長
日本内科学会認定医、日本老年医学会老年科専門医、
日本臨床栄養学会臨床栄養指導医、日本疫学会上級疫学専門家
日本未病学会認定医 他

- 塚原丘美 教授《管理栄養士・博士（医学）》
 - ・ 専門：臨床栄養学
 - ・ 研究テーマ：在宅高齢者を対象とした栄養管理モデルの構築
随時尿 Na/K 比による食塩摂取量推定システムの構築
インスリン分泌能と食習慣の関連
 - ・ 略歴：徳島大学医学部栄養学科卒業
徳島大学大学院栄養学研究科博士前期課程修了
山口大学医学部附属病院栄養管理室 管理栄養士
名古屋大学大学院医学系研究科分子総合医学専攻博士課程修了
日本栄養改善学会理事長、日本栄養学教育学会理事、日本未病学会理事
日本臨床栄養学会会員、日本病態栄養学会会員、日本糖尿病学会会員

- 早戸亮太郎 教授《博士（情報工学）》
 - ・ 専門：温熱生理学、感覚生理学
 - ・ 研究テーマ：褐色脂肪細胞における熱産生機構の解明
 - ・ 略歴：九州工業大学情報工学部卒業
九州工業大学生命体工学研究科博士前期課程修了
九州工業大学生命体工学研究科博士後期課程単位取得満期退学
日本生理学会会員、日本肥満学会会員
生理学エデュケーター(日本生理学会認定)
全国栄養士養成施設協会 栄養士実力認定試験 総務委員 （解剖生理学）
- 藤木理代 教授《管理栄養士・博士（医学）》
 - ・ 専門：応用栄養学
 - ・ 研究テーマ：「Nutrigenomics（栄養遺伝子学）」
「肥満関連遺伝子の解析と栄養ケアへの活用」
「嚢胞性線維症患者の栄養ケア」
 - ・ 略歴：東京家政大学家政学部栄養学科卒業
筑波大学大学院体育研究科健康教育学専攻修士課程修了
名古屋大学大学院医学系研究科健康増進医学専攻博士課程修了
自然科学研究機構生理学研究所特別研究員
ハーバード大学医学部 MGH 消化器科ポスドク研究員
- 山田千佳子 教授《博士（健康科学）》
 - ・ 専門：食品科学、食品機能学
 - ・ 研究テーマ：食物アレルギーに関する研究および機能性食品に関する研究
 - ・ 略歴：名古屋大学大学院生命農学研究科博士前期課程修了
川崎医療福祉大学医療技術学研究科健康科学専攻博士課程修了
日本栄養・食糧学会会員、日本農芸化学会会員、日本調理科学会会員、
日本食品科学工学会会員
- 榎村春江 准教授《管理栄養士・博士(栄養科学)》
 - ・ 専門：応用栄養学、臨床栄養学
 - ・ 研究テーマ：食物アレルギー児への栄養食事指導
食物除去解除指導の開発
牛乳アレルギー児の骨密度調査
アレルギー児への食教育
食物アレルギー児への給食対応と実態に関する研究
食物除去解除後の食生活の実態に関する研究
食物アレルギー患者の成長発育に関する研究
 - ・ 略歴：名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了
小児アレルギーエデュケーター
日本栄養改善学会会員
日本小児アレルギー学会会員
日本小児臨床アレルギー疾患学会会員
日本食育学会会員

- 立花詠子 准教授《管理栄養士・博士（食品栄養科学）》
 - ・ 専門：臨床栄養学
 - ・ 研究テーマ：小児の高血糖と生活習慣との関連について
 - ・ 略歴：徳島大学医学部栄養学科卒業
静岡県立大学大学院博士前期課程修了
日本栄養改善学会評議員、日本栄養治療学会会員
日本病態栄養学会会員
- 日暮陽子 准教授《博士（医学）》
 - ・ 専門：細胞生理学・栄養生理学
 - ・ 研究テーマ：細胞内カルシウム動態、
味覚に関する研究
 - ・ 略歴：九州工業大学情報工学部生物化学システム工学科卒業
九州工業大学大学院情報工学研究科情報科学専攻博士前期課程修了
日本生理学会会員、日本微量元素学会会員
- 伊藤勇貴 講師《管理栄養士・博士（栄養科学）》
 - ・ 専門：公衆衛生学、栄養疫学、健康管理学
 - ・ 研究テーマ：介護予防事業の実施効果に関する研究
口腔機能と栄養状態に関する研究
保健機能食品の利用実態と安全性に関する研究
 - ・ 略歴：名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了
栄養教諭専修免許状、上級健康食品管理士／食の安全管理士（上級）、
日本栄養改善学会評議員、日本口腔ケア学会評議員、日本食品安全協会幹事
- 宇野千晴 講師《管理栄養士・博士（栄養科学）》
 - ・ 専門：高齢者の栄養ケア、高齢者の栄養問題
 - ・ 研究テーマ：高齢期の栄養管理に関する研究
 - ・ 略歴：名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了
介護老人保健施設、病院 管理栄養士
名古屋大学未来社会創造機構／大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学 特任助教
＜所有資格＞
摂食嚥下リハビリテーション栄養専門管理栄養士、健康運動指導士、介護支援専門員、
栄養治療専門療法士（腎疾患専門療法士）、他
＜所属学会＞
日本栄養改善学会（評議員）、日本在宅栄養管理学会（評議員）
日本リハビリテーション栄養学会（理事、代議員）、日本腎臓リハビリテーション学会（代議員）、
日本栄養治療学会会員、日本臨床栄養代謝学会、日本老年医学会会員、他
- 松下英二 講師《管理栄養士・博士(医学)》
 - ・ 専門：老年医学、栄養疫学
 - ・ 研究テーマ：健常高齢者の長期縦断疫学研究
インターネットを利用した疫学研究
食事以外から栄養素摂取量を推定する食事推定式の開発
 - ・ 略歴：名古屋学芸大学管理栄養学部管理栄養学科 卒業
名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科修士課程 修了
名古屋大学大学院医学系研究科医学博士課程 修了
愛知県栄養士会会員、日本口腔ケア学会会員、
日本老年医学会会員、日本サルコペニア・フレイル学会会員、日本栄養改善学会会員

- 安友裕子 講師《管理栄養士・博士（栄養科学）》
 - ・ 専門：栄養教育学、健康管理学
 - ・ 研究テーマ：女子大学生における健康状態および栄養摂取状況の関連
管理栄養士養成校における OSCE の教育効果
 - ・ 略歴：名古屋学芸大学管理栄養学部管理栄養学科卒業
名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科修士課程修了
名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了
健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士
日本口腔ケア学会 評議員、日本栄養改善学会会員、
日本学校保健学会会員、日本健康・栄養システム学会会員
日本栄養学教育学会会員、日本保健医療福祉連携教育学会会員

- 内藤宙大 助教《管理栄養士・博士（栄養科学）》
 - ・ 専門：食品科学
 - ・ 研究テーマ：食物アレルギーに関する研究
 - ・ 略歴：名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士後期課程修了
日本調理科学会会員、日本食品科学工学会会員、
日本栄養・食糧学会会員、日本栄養改善学会会員
日本小児アレルギー学会会員、日本アレルギー学会会員

【注】教員の構成並びに略歴等は 2025 年 4 月現在のものです。

授業概要

- **E B N特論**
「人間栄養」、「医療・介護」、「学校栄養・行政栄養」、「食品機能・食品安全」の研究領域ごとに、栄養科学の基本的な研究手法を理解することによって、栄養科学の研究を推進するために必要な基本的な知識、技能、態度を修得する。
- **E B N演習**
栄養科学の研究を推進するために必要な基本的な知識を習得した上で、実際に研究の一連の流れを理解する。栄養科学の研究の基礎となる英語論文を購読し、研究に必要な語学力を養う。
- **基礎統計解析演習**
各自のノートパソコンにメニュー形式で容易に統計解析が可能な統計アプリ **EZR** をインストールし、実際に **EZR** を使いながら栄養疫学研究のための統計技術を修得する。演習問題を例に様々な統計手法をどのように適用し、結果を判断するのかを実践的にトレーニングする。
- **応用統計解析演習**
各自のノートパソコンに統計言語Rをインストールし、実際にRスクリプトを書いて栄養学研究のための統計技術を取得する。
- **アカデミックライティング**
アカデミックライティングには、形式や作法、問いの設定、文献探索、調査・開発、論理構成、文章表現、研究倫理といった様々な要素があります。受講者には、これらの要素を授業中のミニワークや最終レポート作成を通じて会得し、修士論文作成に役立てることが期待されます。また、意見を出し合うなど受講生間で学びを深めてもらいたいと考えています。
- **栄養生理学特論**
事前学習として栄養学の知識を深めていくために必要な人体の構造と機能についての英文資料を読み、理解を深める。授業前半では割り振られた担当分野について、説明（Power Pointによる発表）を実施してもらう。授業後半にその担当分野についての議論および質疑応答を全員で行う。
- **栄養生化学特論**
本授業では、栄養素の中から、特に生活習慣病の発症や進展に関わりの深い糖と脂質を取り上げ、これらの代謝とその調節機構について生化学的なレベルで解説する。
- **スポーツ栄養学特論**
本講義ではスポーツ栄養学に関する基礎知識や、栄養マネジメントの流れに基づいた栄養サポートについて講義やエビデンスとなる論文の読解を行い学ぶ。また運動や栄養に関する各種アセスメント方法を演習や討論を通して理解を深める。
- **ライフサイクル栄養学特論**
成長期については、学校給食と食育をテーマに、各地の実践例から現状と課題を検討する。成人期については、生活習慣病の一次予防法を最新の研究報告から検討する。高齢期については、体力の維持・増進法を、各自治体による取り組みの実践例や最新の研究報告から検討する。
- **臨床医学特論**
毎回の授業で、疾患別の診療ガイドラインから疾患の診断や治療法、特に栄養療法について学ぶ。
- **臨床栄養学特論**
実際の臨床の場で出会うような複雑な疾患を持つ症例について、あらかじめ用意した現病歴、症状・徴候、血液検査成績等を提示する。問診や検査結果から、提示された症例の栄養管理やサポートの具体的な方法を考え、組み立てる。その内容についてディスカッションを行い、理解を高める。
- **栄養ケアプロセス特論A**
リハビリテーション栄養管理と在宅栄養管理を中心に学習する。長期療養を必要とする傷病者の栄養管理に関する特徴、トピックス、課題等の講義と、症例の栄養管理方法についてディスカッションを行う演習を織り交ぜる。また、傷病者の栄養管理に関する研究論文を紹介し、栄養管理のトピックスについてまとめたものを発表することで、臨床栄養管理の研究方法について学ぶ。

- 栄養ケアプロセス特論B

それぞれの疾患の栄養管理に関する特徴、トピックス、課題等の講義と、症例の栄養管理方法についてディスカッションを行う演習を織り交ぜる。また、傷病者の栄養管理に関する研究論文を紹介し、栄養管理のトピックスについてまとめたものを発表することで、臨床栄養管理の研究方法について学ぶ。本科目では、内分泌・代謝疾患、循環器疾患、消化器疾患、小児アレルギー、摂食嚥下機能障害、Down 症候群を取り上げる。

- 臨床心理学特論

心理療法の様々な理論や技法を活かし、個人のこころを深く理解して支援することが様々な現場で求められている。本講義では代表的な心理療法やアセスメントの理論や技法について解説するとともに、それらの実践方法についての体験的なワークを実施する。例えば各心理療法に特有なこころの読み解き方について説明し、セラピスト・クライアント役に分かれたロールプレイを実施して基本的な関わり方について体験的に理解する。加えて医療機関や福祉機関との連携、他の専門家との連携などチーム・アプローチについても考える。

- 臨床心理学演習

心理療法の様々な理論や技法を活かし、個人のこころを深く理解して支援することが様々な現場で求められている。本演習では、栄養や学校の現場でしばしば見られる精神障害についての概要と援助方法を解説する。例えばうつ病性障害や生活習慣病を抱える人はどんな症状を表し、どんな認知や感情をもつのかについて説明する。さらに医療機関や学校でよくみられるせん妄や障害受容、いじめや不登校などを取り上げる。加えて医療機関や福祉機関との連携、他の専門家との連携などチーム・アプローチについても考える。

- 栄養疫学特論

疫学は、実験動物や培養細胞ではなく、実際の人口集団を対象として、疾病とその規定要因との関連を明らかにする科学である。そのため栄養と生活習慣病との関連性などを研究する場合に欠かすことのできない研究手法である。この科目では疫学用語を理解できること、基本的研究のデザインの作り方を理解できること、食事調査の方法論を理解できることを到達目標にする。

上記の目標達成のため、1～6の講義および7以降は具体的事例の紹介をして、栄養疫学をより具体的に理解できるよう、授業を進める。

- 食教育学特論

栄養教育の理論と実践（国内外の実践事例）のキャッチボールで進める。毎回、栄養・食・生活・環境の現状やその改善・向上のために進められてきた実践事例について情報の共有、関連する栄養教育の理論と展開、評価や課題等について各事例の特徴を活かしながら検討をする。

栄養教育の理論と実践を結ぶ理論展開について、I.Contento 博士の“Nutrition Education “を活用する。なお、授業は講義と演習を複合的に実施する。

- 公衆栄養学特論

SDGs 達成のために地域コミュニティが核となっていて行っている取り組みについて学び、それに対し食教育活動においてできることを検討する。地域コミュニティを核とした実践事例として、“SDGs とまちづくりー持続可能な地域と学びづくり”を活用する。

- 国際栄養学特論

授業担当者自身が、地理学や生態学の理論を基礎とし、多様な地域で実施してきた（計画・実施・評価・環境づくり・人材養成・プロジェクト構築等）事例を紹介し、授業を進める。映像や現地での教材も活用し、国際栄養の実態と課題を学生と共有できるようにする。

- 地域包括ケア特論

各自治体の地域包括ケアの現状と医療・介護の現場で直面するあらゆる課題について具体例や文献を通じて学び、実際の解決策等をプレゼンテーション形式で発表し、ディスカッションすることで理解を高める。

- 食品機能学特論

この特論では、五大栄養素（炭水化物・脂質・タンパク質・ビタミン・無機質）についての英文を購読し、さらに様々な三次機能を中心に食品の機能性について講義する。また、乳幼児から学童期に多い疾患である食物アレルギーについて、発症機構とその抑制についても解説する。

- **食品機能学演習**
この演習では、まず文献の読み方およびデータの解釈の仕方を解説する。その後、各自で論文を選択し、その論文について背景・結果・考察を中心に内容を紹介するとともに、その内容について討論する。
- **食品安全学特論**
健康被害や社会不安を引き起こす要因や制御法、マネジメントシステムを学ぶ。また、給食経営管理の現状を把握し、それらに関わる課題を明らかにし解説策を考察し、多岐にわたる給食システムの個々および相互の関連やPDCAサイクルに基づいた課題の解決や改善策等を調査する。
- **食品安全マネジメントシステム(FSMS)特論**
食品安全専門人材の使命、役割やFSMS構築の課題、ISO22000等のFSMS規格の構造と要求事項について学ぶ。フードチェーンの各段階におけるFSMSの構築事例を学び、管理栄養学部でのFSMS(ISO22000)における課題について議論する。
- **インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ**
自らの専攻や将来の職業に関連した職業体験(研修)を行うことにより、理論を実体験に結びつけるようにする。

【注】授業概要は2025年度のものです。

募集要項

1. 募集研究科（専攻）・入学定員

研究科	専攻	課程	入学定員
栄養科学研究科	栄養科学専攻	博士前期課程	5 人

2. 入試実施日程

入試種類	出願期間	試験日	合格発表
前期日程	8/18(月)～8/28(木)	9/6(土)	9/26(金)
後期日程	1/23(金)～2/5(木)	2/14(土)	3/5(木)

3. 受験資格

次の各項のいずれかに該当する者または 2026 年 3 月 31 日までに該当見込みの者

- ① 大学を卒業した者（法第 102 条）
 - ② 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
（施行規則第 155 条第 1 項第 1 号）
 - ③ 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
（施行規則第 155 条第 1 項第 2 号）
 - ④ 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の 16 年の課程を修了した者
（施行規則第 155 条第 1 項第 3 号）
 - ⑤ 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程（文部科学大臣指定外国大学日本校）を修了した者
（施行規則第 155 条第 1 項第 4 号）
 - ⑥ 外国の大学等において、修業年限が 3 年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
（施行規則第 155 条第 1 項第 4 号の 2）
 - ⑦ 指定された専修学校の専門課程（文部科学大臣指定専修学校専門課程一覧）を修了した者
（施行規則第 155 条第 1 項第 5 号）
 - ⑧ 旧制学校等を修了した者
（昭和 28 年文部省告示第 5 号第 1 号～第 4 号、昭和 30 年文部省告示第 39 号第 1 号）
 - ⑨ 防衛大学校、海上保安大学校、気象大学校など、各省大学校を修了した者
（昭和 28 年文部省告示第 5 号第 5 号～第 12 号、昭和 30 年文部省告示第 39 号第 2 号）
 - ⑩ 大学院において個別の入学資格審査により認めた 22 歳以上の者
（施行規則第 155 条第 1 項第 8 号）
- 法：学校教育法 施行規則：学校教育法施行規則

※受験資格③・④・⑩で出願しようとするものは、必ず定められた期日までに所定の資料を提出し、事前審査又は個別審査で出願の許可を受けてから出願すること。出願の許可を受けずに出願した場合は、出願を認めないので注意すること。詳しくは、事前に事務局（大学院係）に（前期 7 月 1 日・後期 12 月 1 日まで）問い合わせること。

※外国国籍を有する者で、受験資格③、④、⑤、⑥で出願しようとする者は、「公益財団法人日本国際教育支援協会」または「独立行政法人国際交流基金」が実施する「日本語能力試験（N1）」に合格した者に限る。なお、出願前に必ず事務局（大学院係）に（前期 7 月 1 日・後期 12 月 1 日まで）問い合わせること。

4. 選考方法

一般入試

- (1) 書類審査
- (2) 試験科目
 - ① 英語 60分（辞書持込可、但し電子辞書、インターネット辞書並びにそれに類ずると思われる電子機器を利用した辞書は不可）
 - ② 専門（栄養科学） 60分
- (3) 口頭試問
研究計画書に基づく試問及び専門分野についての試問等
合格判定は、書類、試験、口頭試問による総合判定

名古屋学芸大学対象特別選抜入試

■ 出願資格 名古屋学芸大学を卒業見込みの者及び2016年3月以降に卒業した者

- (1) 書類審査
- (2) 口頭試問
研究計画書に基づく試問及び専門分野についての試問
合格判定は、書類、口頭試問による総合判定

社会人特別選抜入試

■ 出願資格 管理栄養士の資格を有し、過去もしくは現在までに栄養又は保健に関連する分野に関わる職歴が3年以上を有する者。（入学後も職に付く者は勤務先の承諾書が必要）

- (1) 書類審査
- (2) 小論文〔テーマ又は専門・英語などの資料読解等〕 90分 1, 200文字程度
- (3) 口頭試問
研究計画書に基づく試問及び専門分野についての試問
合格判定は、書類、小論文、口頭試問による総合判定

※ 長期履修の適用

社会人特別選抜入試にて合格し、入学後も職に付く者については長期履修規程に基づく履修を認める。

5. 入学検定料

35,000円

※出願に関して

大学院の「特別研究」については、受験生が希望する研究を、指導教員の専門分野の関係上指導できない場合があるため、必ず事前に受験生が大学院で研究したい内容で研究可能か確認し、指導教員の受け入れ許可を得た上で出願をすること。許可を受けずに出願した場合は、これを認めないので注意すること。

※受験上の合理的配慮が必要な方へ

本学大学院の入学選抜試験において、障がいや疾病および怪我などにより受験上の合理的配慮が必要な場合、受験時に合理的配慮を提供します。合理的配慮が必要な方は、出願前にその旨大学までご連絡ください。障がい等の程度に応じた合理的配慮に向けて検討・調整を行いますが、すべてのご希望に添えるとは限りませんので予めご承知おきください。

納付金

(単位：円)

	手続時	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期	計
入 学 金	100,000 円				100,000 円
授 業 料	400,000 円	400,000 円	400,000 円	400,000 円	1,600,000 円
教育充実費	95,000 円	95,000 円	95,000 円	95,000 円	380,000 円
計	595,000 円	495,000 円	495,000 円	495,000 円	2,080,000 円

但し、入学時は２段階納付 １次：入学金 ２次：授業料・教育充実費
 なお、名古屋学芸大学卒業生は入学金を免除

長期履修制度の適用について

栄養又は健康に関連する分野の職に就く者で、現職に関わる職歴が２年以上を経過し、入学後も現在の勤務を続けることが可能な者については、標準修業年限２年を超えて、３年間又は４年間修学することができる。
 (勤務先の承諾書が必要)

なお、その際長期履修期間の授業料は、標準履修期間の総額と同額とし、原則として長期履修年数で分割して納入するものとする。(但し、教育充実費については標準履修期間で学修する学生が各期に納付する金額と同額を履修全期間納入することとなっておりますのでご注意ください。)

その他詳細については、大学までお問い合わせ下さい。

(修学期間 3 年間の納入例)

(単位：円)

	手続時	1 年次後期～3 年次後期	計
入 学 金	100,000 円		100,000 円
授 業 料	400,000 円	240,000 円	1,600,000 円
教育充実費	95,000 円	95,000 円	570,000 円
計	595,000 円	335,000 円	2,270,000 円

お問合せ先

名古屋学芸大学 事務局

〒470-0196 日進市岩崎町竹ノ山 57 大学院係 tel.0561-75-2880(直通)

E-mail: gr-office_ml@nuas.ac.jp

名古屋学芸大学 事務局

E-mail: gr-office_ml@nuas.ac.jp

〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57

TEL (0561) 75-2880 (直通電話)